

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号
特開2024-144792
(P2024-144792A)

(43)公開日 令和6年10月15日(2024.10.15)

(51)国際特許分類

F I

テーマコード (参考)

A 4 7 J 45/07 (2006.01) A 4 7 J 45/07 A 4 B 0 5 9

A 4 7 J 37/10 (2006.01) A 4 7 J 37/10

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全8頁)

(21)出願番号	特願2023-56904(P2023-56904)	(71)出願人	591261602 サーモス株式会社 新潟県燕市吉田下中野 1 4 3 5 番地
(22)出願日	令和5年3月31日(2023.3.31)	(74)代理人	110001634 弁理士法人志賀国際特許事務所
		(72)発明者	下里 麻結 新潟県燕市吉田下中野 1 4 3 5 番地 サ ーモス株式会社内
		(72)発明者	金生谷 猛 新潟県燕市吉田下中野 1 4 3 5 番地 サ ーモス株式会社内
		F ターム (参考)	4B059 AA02 AB02 BC12 BC15

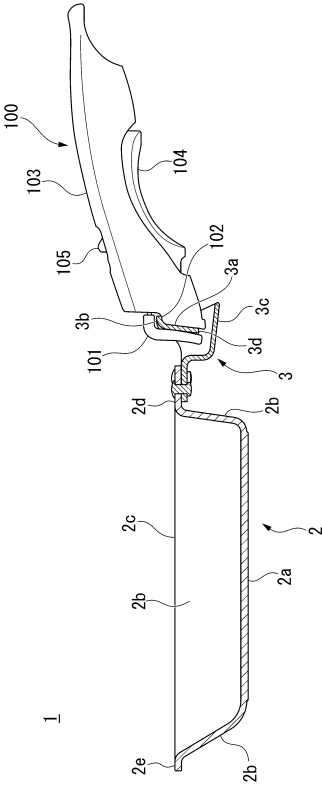
(54)【発明の名称】 調理器

(57)【要約】

【課題】安全且つ使い勝手の良い着脱式ハンドルの取付構造を有する調理器を提供する。

【解決手段】底壁部 2 a と、底壁部 2 a の周囲から立ち上がる側壁部 2 b と、側壁部 2 b の上部が開口した上部開口部 2 c とを有する調理器本体 2 を備え、調理器本体 2 は、上部開口部 2 c の周囲から側壁部 2 b よりも外側に向かって突出されたフランジ部 2 d と、フランジ部 2 d に取り付けられたハンドル取付部材 3 とを有し、ハンドル取付部材 3 を介して着脱式ハンドル 1 0 0 が取り付けられ、ハンドル取付部材 3 は、着脱式ハンドル 1 0 0 の先端側に設けられた把持部 1 0 1 により把持される立壁部 3 a と、立壁部 3 a の上端から外側に向かって突出されたリブ壁部 3 b とを有し、フランジ部 2 d は、前記リブ壁部 3 b よりも長く突出している。

【選択図】図 3



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

底壁部と、
前記底壁部の周囲から立ち上がる側壁部と、
前記側壁部の上部が開口した上部開口部とを有する調理器本体を備え、
前記調理器本体は、前記上部開口部の周囲から前記側壁部よりも外側に向かって突出されたフランジ部と、
前記フランジ部に取り付けられたハンドル取付部材とを有し、
前記ハンドル取付部材を介して着脱式ハンドルが取り付けられ、
前記ハンドル取付部材は、前記着脱式ハンドルの先端側に設けられた把持部により把持される立壁部と、前記立壁部の上端から外側に向かって突出されたリブ壁部とを有し、
前記フランジ部は、前記リブ壁部よりも長く突出していることを特徴とする調理器。

【請求項 2】

前記フランジ部は、前記上部開口部の全周に亘って設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の調理器。

【請求項 3】

前記フランジ部は、前記上部開口部から水平方向に突出して設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の調理器。

【請求項 4】

前記調理器本体は、角形のフライパンであることを特徴とする請求項 1 ～ 3 の何れか一項に記載の調理器。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、調理器に関する。

【背景技術】

【0002】

例えば、フライパンや鍋などの調理器の中には、固定式のハンドルではなく、着脱式のハンドルを備えたものがある（例えば、下記特許文献 1，2 を参照。）。

【0003】

着脱式ハンドルは、その先端側に設けられた把持部によりフライパンの縁を把持する構造となっている。これにより、外径などのサイズが異なるフライパンや鍋などの調理器に対して、ある程度の互換性を持たせている。

【0004】

一方、フライパンなどの調理器は、着脱式ハンドルが取り付けられた状態で、調理に供されるため、把持部に食材が付着して汚れてしまうおそれがある。また、把持部に直火が当たると、把持部が破損してしまうおそれがある。

【0005】

下記特許文献 1 には、フライパンに着脱自在な着脱式ハンドルに対応するフライパン構造であって、ハンドル取手に直火が当たった際の破損を防ぐため、金属ベルトがハンドル本体に一体型に結合されている構造が開示されている。

【0006】

また、下記特許文献 2 には、フライパンに着脱自在で同フライパンを移動可能な着脱式ハンドルに対応するフライパン構造であって、フライパンの開口外周壁部の外側面に、着脱式ハンドルの先端を着脱自在なハンドル取手が取り付けられた着脱式ハンドル用フライパン構造が開示されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0007】

【特許文献 1】特開 2013-66701 号公報

10

20

30

40

50

【特許文献 2】 実用新案登録第 3 1 7 6 3 8 6 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0008】

ところで、上述した特許文献 1 に記載の構造では、フライパン（調理器容器）にハンドルが取り付けられた状態で、把持面がフライパンの外側に当接するため、調理時に加熱されたフライパンの熱や直火が把持面に当たることで把持面が劣化することがある。

【0009】

また、上述した特許文献 2 に記載の構造では、誤ってフライパンの縁にハンドル取手を取り付けてしまうことが想定される。この場合、使用中や移動中に着脱式ハンドルからフライパンが抜け落ちてしまうおそれがある。

10

【0010】

さらに、ハンドル取手は、フライパンの側壁部にカシメにより取り付けられている。したがって、この場合、菜箸やフライ返しなどの調理器具がカシメ部分に当たってしまい、調理しづらかったり、カシメ部分に食材が付着し、洗浄に手間がかかってしまうおそれがある。

【0011】

本発明は、このような従来の事情に鑑みて提案されたものであり、安全且つ使い勝手の良い着脱式ハンドルの取付構造を有する調理器を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

20

【0012】

上記目的を達成するために、本発明は以下の手段を提供する。

〔1〕 底壁部と、

前記底壁部の周囲から立ち上がる側壁部と、

前記側壁部の上部が開口した上部開口部とを有する調理器本体を備え、

前記調理器本体は、前記上部開口部の周囲から前記側壁部よりも外側に向かって突出されたフランジ部と、

前記フランジ部に取り付けられたハンドル取付部材とを有し、

前記ハンドル取付部材を介して着脱式ハンドルが取り付けられ、

前記ハンドル取付部材は、前記着脱式ハンドルの先端側に設けられた把持部により把持される立壁部と、前記立壁部の上端から外側に向かって突出されたリブ壁部とを有し、

30

前記フランジ部は、前記リブ壁部よりも長く突出していることを特徴とする調理器。

〔2〕 前記フランジ部は、前記上部開口部の全周に亘って設けられていることを特徴とする前記〔1〕に記載の調理器。

〔3〕 前記フランジ部は、前記上部開口部から水平方向に突出して設けられていることを特徴とする前記〔1〕に記載の調理器。

〔4〕 前記調理器本体は、角形のフライパンであることを特徴とする前記〔1〕～〔3〕の何れか一項に記載の調理器。

【発明の効果】

【0013】

40

以上のように、本発明によれば、安全且つ使い勝手の良い着脱式ハンドルの取付構造を有する調理器を提供することが可能である。

【図面の簡単な説明】

【0014】

【図 1】 本発明の一実施形態に係る調理器において着脱式ハンドルが取り付けられた状態を示す斜視図である。

【図 2】 図 1 に示す調理器において着脱式ハンドルが取り付けられた状態を示す側面図である。

【図 3】 図 1 に示す調理器において着脱式ハンドルが取り付けられた状態を示す断面図である。

50

【図４】図１に示す調理器のハンドル取付部材の構成を後側から見た斜視図である。

【図５】図１に示す調理器のハンドル取付部材の構成を上側から見た斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【００１５】

以下、本発明の実施形態について、図面を参照して詳細に説明する。

本発明の一実施形態として、例えば図１～図５に示す調理器１について説明する。

【００１６】

なお、図１は、調理器１において着脱式ハンドル１００が取り付けられた状態を示す斜視図である。図２は、調理器１において着脱式ハンドル１００が取り付けられた状態を示す側面図である。図３は、調理器１において着脱式ハンドル１００が取り付けられた状態を示す断面図である。図４は、調理器１のハンドル取付部材３の構成を後側から見た斜視図である。図５は、調理器１のハンドル取付部材３の構成を上側から見た斜視図である。

10

【００１７】

本実施形態の調理器１は、例えば図１～図５に示すような角形のフライパンに本発明を適用したものである。

【００１８】

具体的に、この調理器１は、角形のフライパンを構成する調理器本体２と、調理器本体２に対して着脱自在に取り付けられる着脱式ハンドル１００とを備えている。

【００１９】

調理器本体２は、平面視で略矩形状となる底壁部２ａと、底壁部２ａの周囲から立ち上がる４つの側壁部２ｂとを有している。

20

【００２０】

側壁部２ｂの上部は、上部開口部２ｃとして、平面視で略矩形状に開口している。また、底壁部２ａと各側壁部２ｂとの間及び各側壁部２ｂの間の角部は、それぞれ湾曲した形状を有している。各側壁部２ｂは、底壁部２ａに対して外側（着脱式ハンドル１００側）に傾斜している。

【００２１】

調理器本体２は、上部開口部２ｃの周囲から側壁部２ｂよりも外側に向かって突出されたフランジ部２ｄ、２ｅを有している。

【００２２】

フランジ部２ｄ、２ｅは、上部開口部２ｃの全周に亘って設けられている。また、フランジ部２ｄ、２ｅは、側壁部２ｂの上端部を外側に折り曲げることによって形成されている。

30

【００２３】

調理器本体２は、例えば、鉄やステンレス、アルミニウム、銅などの熱伝導性に優れた金属板をプレス加工することによって、これら底壁部２ａ、側壁部２ｂ及びフランジ部２ｄ、２ｅが一体に成形されると共に、プレス加工後に鍛造により底壁部２ａ、側壁部２ｂ及びフランジ部２ｄ、２ｅの板厚を変更したものからなる。

【００２４】

なお、調理器本体２については、上述した加工方法によるものに限らず、例えばプレス加工のみで成形したものや、ダイキャスト加工で成形したものであってもよい。

40

【００２５】

また、４つの側壁部２ｂのうち、手前（着脱式ハンドル１００側）に位置する側壁部２ｂから突出されたフランジ部２ｄには、ハンドル取付部材３がカシメ等により一体に取り付けられている。

【００２６】

本実施形態では、カシメ部分を三角状に３箇所設けることで、ハンドル取付部材３の取付強度を高めている。なお、カシメについては、左右対称に２箇所設けた構成であってもよい。

【００２７】

50

ハンドル取付部材 3 が取り付けられるフランジ部 2 d は、残りのフランジ部 2 e よりも大きく外側に突出して設けられている。これに対して、残りのフランジ部 2 e は、一定の幅で外側に突出して設けられている。

【 0 0 2 8 】

ハンドル取付部材 3 は、立壁部 3 a と、立壁部 3 a の上端から外側に向かって突出されたリブ壁部 3 b と、立壁部 3 a の下側の周囲を覆う周壁部 3 c とを有して、これらが、例えばアルミニウム合金などの金属により一体に成形されたものからなる。

【 0 0 2 9 】

立壁部 3 a 及びリブ壁部 3 b は、着脱式ハンドル 1 0 0 の先端側に設けられた把持部 1 0 1 により把持される部分であり、鉛直よりも外側に僅かに傾斜しており、上方から見たときに略円弧形状を有している。なお、立壁部 3 a の傾斜は、鉛直方向に対して 5 ~ 1 0 ° の角度で外側に傾斜させると、着脱式ハンドル 1 0 0 を取り付けの際に、使用に最適な角度となるように設計されている。

【 0 0 3 0 】

立壁部 3 a 及びリブ壁部 3 b は、略 L 字形状を有して、着脱式ハンドル 1 0 0 は、立壁部 3 a 及びリブ壁部 3 b を把持部 1 0 1 と段部 1 0 2 とで L 字状に挟持することで、強固に嵌合し得るものである。

【 0 0 3 1 】

なお、本実施形態における着脱式ハンドル 1 0 0 は、ハンドル取付部材 3 が取り付けられた調理器本体 2 の他にも、例えば丸型フライパンを直接把持することができるように、把持部 1 0 1 は上方から見て略円弧形状を有している。

【 0 0 3 2 】

このため、把持部 1 0 1 に把持される立壁部 3 a 及びリブ壁部 3 b も略円弧形状を有しているが、このような形状に必ずしも限定されるものではなく、把持部 1 0 1 と立壁部 3 a 及びリブ壁部 3 b とが互いに平板形状であってもよい。

【 0 0 3 3 】

なお、ハンドル取付部材 3 の上方、すなわち立壁部 3 a の上部が上部開口部 2 c より上方に位置していることで、周壁部 3 c の下面の空間を十分に取ることができ、加熱時にハンドル取付部材 3 に滞留する熱が逃げ易くなっている。

【 0 0 3 4 】

周壁部 3 c は、立壁部 3 a を把持した着脱式ハンドル 1 0 0 に直火が当たることがないように、立壁部 3 a の側方及び下側の周囲を覆うように湾曲していると共に、その先端が立壁部 3 a よりも外側（着脱式ハンドル 1 0 0 側）に突出して設けられている。また、周壁部 3 c は、外側（着脱式ハンドル 1 0 0 側）に向かって下向きに傾斜した形状を有している。立壁部 3 a は、この周壁部 3 c の内側を仕切るように設けられている。

【 0 0 3 5 】

また、立壁部 3 a と周壁部 3 c との間には、孔部 3 d が設けられている。孔部 3 d は、周壁部 3 c の内側に位置して、立壁部 3 a の下側を貫通して設けられている。

【 0 0 3 6 】

ハンドル取付部材 3 は、このような孔部 3 d を有することで、調理器 1 の洗浄時に水抜きとして、周壁部 3 c の内側に水が溜まることを防ぎつつ、この周壁部 3 c の内側を洗浄し易くしている。

【 0 0 3 7 】

また、孔部 3 d を有することで、直火が周壁部 3 c に当たった場合であっても、ハンドル取付部材 3 の熱が逃げ易くなると共に、その熱が周壁部 3 c の下面から立壁部 3 a に直接伝わらないため、立壁部 3 a から着脱式ハンドル 1 0 0 に伝わる熱により把持部 1 0 1 及び段部 1 0 2 が劣化することを防ぐことが可能である。

【 0 0 3 8 】

着脱式ハンドル 1 0 0 は、上述した把持部 1 0 1 及び段部 1 0 2 の他にも、使用者が把持する取手部 1 0 3 と、把持部 1 0 1 の立壁部 3 a 及びリブ壁部 3 b を把持した状態を保

10

20

30

40

50

持するロックレバー１０４と、把持部１０１の立壁部３ａ及びリブ壁部３ｂを把持した状態を解除するロック解除ボタン１０５とを有している。

【００３９】

着脱式ハンドル１００では、その操作性を考慮して、ロックレバー１０４が取手部１０３の下面側に設けられ、ロック解除ボタン１０５が取手部１０３との上面側に設けられている。

【００４０】

以上のような構成を有する本実施形態の調理器１では、上述した調理器本体２にハンドル取付部材３を介して着脱式ハンドル１００が取り付けられている。

【００４１】

これにより、本実施形態の調理器１では、着脱式ハンドル１００の把持部１０１に食材が付着して汚れてしまうことを防ぐことが可能である。

【００４２】

また、本実施形態の調理器１では、上述したハンドル取付部材３が調理器本体２のフランジ部２ｄに取り付けられているため、調理器本体２の内側にカシメ部分が露出することがない。

【００４３】

また、本実施形態の調理器１では、上述した立壁部３ａの下側の周囲を周壁部３ｃが覆う構成のため、立壁部３ａを把持した着脱式ハンドル１００に直火が当たることを防ぎつつ、この着脱式ハンドル１００を保護することが可能である。

【００４４】

また、本実施形態の調理器１では、上述した着脱式ハンドル１００の把持部１０１によって、調理器本体２の上部開口部２ｃの周囲が把持できない形状となっている。すなわち、この調理器本体２の上部開口部２ｃの周囲には、全周に亘ってフランジ部２ｅが設けられている。

【００４５】

フランジ部２ｅは、上部開口部２ｃの周囲から外側に向かって突出された端部までの長さが、リブ壁部３ｂの立壁部３ａの上端から外側に向かって突出された端部までの長さよりも長くなるように設けられている。

【００４６】

フランジ部２ｅの長さは、着脱式ハンドル１００のロックレバー１０４をロックした状態で、把持部１０１と段部１０２との間の長さよりも長くなっているため、フランジ部２ｅが設けられた部分を着脱式ハンドル１００の把持部１０１により把持することは不可能な形状となっている。

【００４７】

これにより、本実施形態の調理器１では、上述したハンドル取付部材３にのみ着脱式ハンドル１００を取り付けることが可能となっている。

【００４８】

なお、本実施形態の調理器１では、フランジ部２ｄ，２ｅが側壁部２ｂの上端部を外側に略水平に折り曲げることによって形成されているが、このような構成に限らず、上方又は下方に傾斜した角度を有したものであってもよい。

【００４９】

以上のようにして、本実施形態の調理器１では、安全且つ使い勝手の良い着脱式ハンドル１００の取付構造を得ることが可能である。

【００５０】

なお、本発明は、上記実施形態のものに必ずしも限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲において種々の変更を加えることが可能である。

【００５１】

例えば、上記着脱式ハンドル１００の把持部１０１によって、調理器本体２の上部開口部２ｃの周囲が把持できない形状については、上述したフランジ部２ｅの突出量や折り曲

10

20

30

40

50

げ角度、厚みなどを調整することによって実現可能である。

【0052】

また、上記調理器1では、立壁部3aを傾ける角度によって、着脱式ハンドル100の取り付け角度を調整することが可能である。すなわち、立壁部3aの上端が調理器本体2側に向かって傾いているほど、調理器本体2に取り付けられる着脱式ハンドル100の先端が上向きとなる。

【0053】

一方、立壁部3aの上端が調理器本体2から離れる方向に向かって傾いているほど、調理器本体2に取り付けられる着脱式ハンドル100の先端が下向きになる。したがって、立壁部3aの角度を調整することによって、着脱式ハンドル100の取り付け角度を任意に調整することが可能である。

10

【0054】

なお、本発明が適用される調理器については、上述した角形のフライパンに必ずしも限定されるのではなく、例えば丸形のフライパンや鍋などにも本発明を適用することが可能である。

【0055】

また、着脱式ハンドル100については、上述した1種類の角形フライパンにのみ取り付け可能なものではなく、例えば外径などのサイズが異なるフライパンや鍋などの調理器に対して、ある程度の互換性を持たせることが可能である。

【0056】

特に、本発明を適用した調理器1では、上述したハンドル取付部材3の立壁部3a及びリブ壁部3bの形状を共通化することで、形状やサイズが異なるフライパンや鍋などの調理器に対して、幅広く互換性を持たせることが可能である。

20

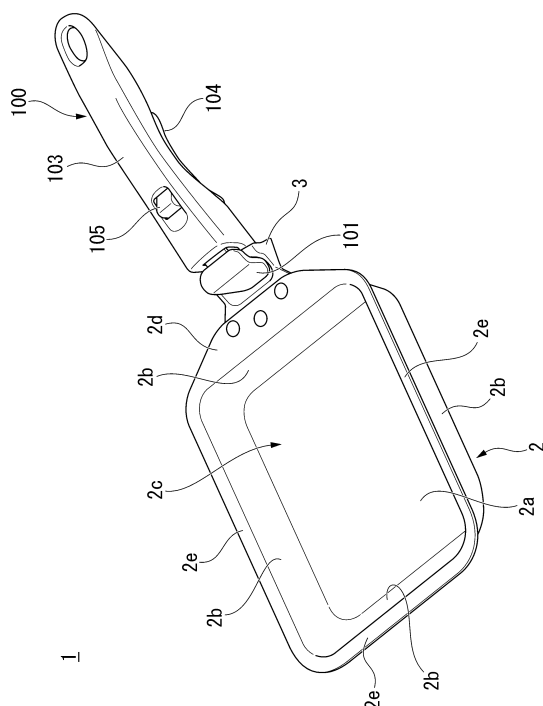
【符号の説明】

【0057】

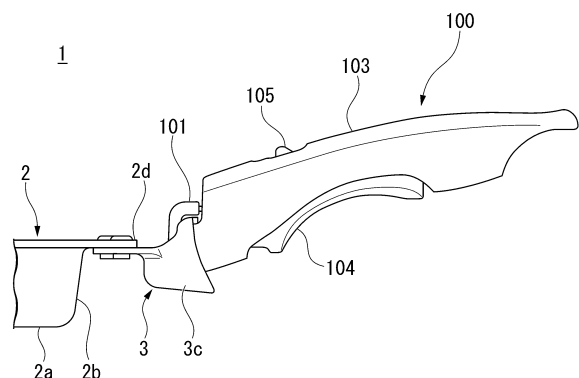
1…調理器 2…調理器本体 2a…底壁部 2b…側壁部 2c…上部開口部 2d…フランジ部 2e…フランジ部 3…ハンドル取付部材 3a…立壁部 3b…リブ壁部 3c…周壁部 3d…孔部 100…着脱式ハンドル 101…把持部 102…段部 103…取手部 104…ロックレバー 105…ロック解除ボタン

【図面】

【図1】



【図2】



30

40

50

